



ぼらんていあ倶楽部

発行：西東京ボランティア・市民活動センター 〒202-0013 西東京市中町 1-6-8 保谷東分庁舎内
TEL 0424(38)3771 FAX 0424(38)3772
ランチ：西東京ボランティア・市民活動センターたなし 〒188-0011 西東京市田無町 5-5-12 総合福祉センター
TEL 0424(66)3070 FAX 0424(66)3555

NGOって何だろう？

昨年、一人の政治家スキャンダルが巷で話題になったとき、「NGO」という言葉を新聞でよく見かけました。また最近では北朝鮮からの「脱北者」を支援する団体としてNGOがよく登場しているので、名称自体はご存知の方も多いでしょう。

NGOとはNon Governmental Organizationの頭文字を取った略称で、日本では「非政府組織」と訳されています（反政府組織ではありません、念のため）。最近では様々な社会問題の解決に取り組む市民活動団体を総称して「NGO」と呼んでいます。日本国内では、特に国際協力に携わる市民活動団体のことを指してNGOと呼びますが、発展途上国では国内の福祉活動を行う団体のこともNGOと呼びます。

市民活動団体の呼び方でよく知られているのがNPOでしょう。こちらはNon Profit Organizationの略で「非営利組織」という意味です。従って同じ団体でも組織の在りようを「非政府」から見ればNGOであり、「非営利」から見ればNPOであったりするわけです。

NGOという呼称には法人格の有無は関係ありません。例えばある人が仲間を集めてアフガニスタンの子ども支援を始めればNGOと呼んでも差し支えないということです。ただ、年間予算や有給スタッフの有無など一定の条件を付けると、およそ400のNGOが日本国内に存在すると言われていています。NGOの活動分野としては、緊急救援をはじめ、医療、教育、福祉、環境、人権など発展途上国での支援活動や日本国内での政策提言、開発教育、フェアトレード（公平・公正な貿易）など多岐に及びます。これらの分野の一つだけに取り組むNGOもあれば、いろいろと関わっているNGOもあります。

NGO活動の特徴として、意思決定が早く機動性に富んでいる、現地のニーズに柔軟に対応できる、市民が中心となって活動に取り組んでいる、行政や企業セクターから組織的、財政的に自立しているなどがあげられます。

NGO活動は一般市民の参加が基本です。海外に行かなくても日本でできる身近な国際ボランティアのメニューもたくさんあります。幸い都内にはたくさんのNGOが事務所を構えていますので、気軽に訪ねていってはいかがでしょうか。自分の気に入ったNGOがきっと見つかりますよ。

シャプラニール=市民による海外協力の会事務局長 坂口和隆

【参考になるウェブサイト】

国際協力NGOセンター（JANIC）NGO全体の情報交換や相互の協力をしていくために設立されたネットワークNGO <http://www.janic.org/>

国際協力事業団（JICA）中央行政による国際協力の実施団体。青年海外協力隊の派遣も行っている。

<http://www.jica.go.jp/>

シャプラニール=市民による海外協力の会 筆者の所属するNGO。バングラデッシュとネパールで活動している。 <http://www.shaplaneer.org/>



第2回ボランティアのつどい「自分探しの旅へ」

西東京ボランティア・市民活動センターでは実行委員会との共催で、第2回ボランティアのつどいを開催します。多方面で活躍されている方をお迎えしてのパネルディスカッションを中心に、みんなでボランティア活動を考えます。アトラクションは田無養護学校太鼓クラブによる演奏を予定しています。お誘い合わせの上、是非お出かけください。

【日時】2003年3月15日（土）13:30～16:30（13:00受付開始）

【会場】田無総合福祉センター2階 視聴覚室（田無町5-5-12）

【参加費】無料

【申込み】3月11日（火）までに下記のいずれかで西東京ボランティア・市民活動センターへ（先着80名）

TEL: 0424-66-3070 FAX: 0424-66-3555 mail: nishi-vc@n-csw.mnw.jp

～私たちの選択～ 「普通学級で学ぶとは」

障害をもつ子どもたちが地域の学校へ、時にボランティアの介助を受けて通っています。なぜ普通学級で、なぜボランティアなのか。その選択の意味と学校での様子を保護者の方から伺いま

輪島 (父) 泉小学校 4年男児。全盲で水曜日の午後は盲学校の通級学級に通っている。週に2回の体育はボランティアに付き添ってもらっている。

根本 (母) 脳性マヒで立てない、歩けないという肢体不自由児である。4月に本町小学校に入学予定で、介助の手が必要なため保護者の協力を得たいと学校と教育委員会から言われたが両親とも仕事をもって、ボランティアの協力を得たい。

川田 (母) 保谷小学校に通う1年男児。先天性ミオパチーという全身の筋肉の病気で肢体不自由。車椅子で通学している。トイレ、給食、体育等で介助の手が必要なので大勢のボランティアに支えられて学校生活を送っている。地域の方に育てられていると実感している。

仲吉 (母) 保谷小学校1年男児。川田さんとは隣のクラスで同時期に入学した。自閉傾向、発達遅滞で知的障害がある。入学時に学校から「お母さんが付いて」と言われ様子を見ながら付いていたが、毎日親が付くのは限界があり、夏休みのプールからボランティアに入ってもらった。子どもが人に慣れるのに時間がかかるので、2学期から少しずつ、現在、母親の他に4人に支えてもらっている。

根本 (父) 去年くらいから公的な介助員をつけてほしいと市に働きかけているが、なかなかつけられないということで、ボランティアの力を借りないにっちもさっちも行かない状態である。望むところを明確にしておいて、親の負担やボランティアにお手伝いいただくことは過渡的なものであることを忘れないようにしたい。今の現実をどう乗り切るか、将来的にこの町がどういう住みやすい町になるかという両方の面からやっていきたい。

阿部 (母) 谷戸小学校4年男児。1年3学期の体育からボランティアをお願いしている。肢体不自由で脳性マヒの障害があるが、そういう子でも体育はちょっと工夫すれば何か出来るのではないかと1学期、2学期は親がつき、3学期になってこれが親ではなく他の人が考えたらどういう介助の仕方になるのか、親の気がつかない部分も気がついてくれるだろう、とボランティアをお願いした。今、週に3回、3人のボランティアにお世話になっている。

介助員のことになるが、インクルージョン()ということ考えると、介助員は絶対必要だと思う。

教育委員会だけで無理なら地域の力、医療機関、NPOとかの力を借りて横の連携があれば何か出来るのではないかと考えている。行政の中でも障害福祉、児童福祉、またボランティア・市民活動センター、地域の人の協力を得て全体でやっていけばいいのではないかと考えている。

()【インクルージョン】

機能的統合。障害児と非障害児が一緒にいるとき双方のニーズを兼ね備えている教育課程が組まれる授業が行われる教育形態。

阿部 (父) 息子が今まで学校生活を送ってこられたのはボランティアのお陰である。先ほどの体育の話でも母親がつくとワンパターンになり、自分では思い付かないこともあり、身内の限界もある。息子は人見知りもせず色々な人と接しているし、ボランティアともいい関係でお世話になりつつ仲良くしてきている。高学年になると変わってくるだろうが、どういう感じにつながっていけるか楽しみだ。

輪島 先生との出会い、友だち関係でもラッキーの連続だった。水曜日に給食を食べ終わってから盲学校に行くが他のところの話を聞くと結構厳しい状況だ。「掃除もしないで行っちゃうの」とか意地悪を言われるところもあるようだが、うちは何も言われない、というより応援されている。

Q 親についてほしいと学校から言われなかったか？

輪島 学校も前例がない。目の見えない子を受け入れたときにどうなるか、何かあったら大変だという学校としての心配が大きかった。実際受け入れたときに何がどうできるかが全然わかっていないわけだから。親としても何かあったらどうするのと言われて、どうするかと考えるが、何かあるというのは障害者だからというわけではなくて、普通の子にもいっぱいあるわけだから、そう言われるたびにこちらの意志が固まっていた。

友だちが良くて、先生方も理解されて色々な場面で声をかけてくれて、学校全体でも最初に入ったときに朝礼でこういう子が入ったから気をつけてね、と校長先生が話されたようだ。先生方全体でも理解をしてくれて見守ってくれている。クラスの友だちがめぐり合わせなのだろうが、いろんなところで手を引っ張ってくれる。地域という話では、上に2人兄弟がいて同じ泉小学校を出ている。そのへんで先生もうちのことを知っている。地域の子たちとも長い付き合いで中学校まで一緒に行くから地域のお父さん、お母さんとかいろんな人がある程度知っていて、地域で育ててもらっているというところが大きい。

根本 (母) 授業で先生が具体的にサポートすることはあるか

輪島 最初は「はい、こちら見て」という授業はできないわけだから、説明についても、このへんは見えないからどうしようかという話はした。特別うちの子だけの授業ではないのだけれど、少しでも聞いて理解できる努力をしてもらった。入学してか

らずっと、学期の終わり毎に担任、教頭、校長先生を交えて、1学期を振り返ってどうだったか、どの点が問題だったか、次の学期はどうしようとか話してきている。

根本 (母) 授業中、創意工夫をしながら本人、親と話し合いながら少しずつわかりやすい授業をしようとか・・・

輪島 具体的に言うと、見えない子に漢字は意味がない。全然わからないのだから。でも今、ワープロがあり、音声ガイダンスのワープロを使っている盲人も多く、漢字変換をするが、漢字を知っていないと正しい変換が出来ない。書ける必要はないが知らなきゃできないので実際に書いている。ボールペンで書くと膨らんでくる紙があって、盲人はこういう紙を使ってる、と言うと学校でも紙を買いました。授業中だと実際追いついていけないのは、他の子たちの半分以下だ。そのぶんが宿題になって1年、2年のときは厳しかった。筆力もないし、書くと1字か2字で疲れる。それを家で補いながらついてきている。明日テストというときなんか、大体の子は漢字ドリル1ページくらい出るが、10個も、20個も覚えられないから、できる範囲でやろうと5個でも10個でも覚えた範囲でテストに臨むとか、そのへんは先生と話しながらやっている。

根本 (母) 障害児がいることで勉強が遅れるとか、もっと早くやってほしいとか、まわりの生徒や親御さんからクレームはなかったか。

輪島 けっこう心配したがほとんどなかった。

根本 (母) 休み時間に先生やボランティアの付き添いは？

輪島 休み時間は誰もついてなくて、一人でいるか友だち同士で外に行き遊んだり、話をしたり、どうか友だちとやり取りしている。普通の子と同じ過ごし方である。体育のみボランティアが付いているが、教科書は点字でないと見えないので、それは田無と保谷地区、練馬区の点字グループと連絡を取り合い協力してもらっている。学校に親と一緒に来るように言われることはなく登校班は一緒に行ってくれる地元のグループがあり、それ以降の時期は近くの友だちが待ち合わせをしていて、その交差点まで妻が送って行き、そこから友だちが手をつないで行ってくれる。帰りはばらばらだから親が迎えに行く。

阿部 (父) 掃除なんかは雑巾がけとか、できることをやっている。そういうことも言う子は言うと思う。うちは机を運ぶのは無理だが、友達の方でさせないと思うのか、したほうが皆と共同だよということなのか、じゃあ阿部君は雑巾がけできるよね、って。それをやらせてもらう子どもの自然な気持ちというか。それに対して机を運べないだろう、これ

はできないだろう、と言われたことはない。友だち、担任に恵まれていた。勉強もトラブルはなかったが、別メニューみたいな部分もあった。

根本 (母) 別メニューは担任の先生が用意するのか？親から、こういうことならできると伝えることは？

阿部 (母) 担任の先生も時間がないからいつもではない。今訓練しているところで電卓を使っていて、担任の先生に「うちの子電卓できるんですよ」と言うと、「じゃあ、算数の時間に持ってきてください」と言われ、「うちの子だけいいんですか」と聞くと「いいんですよ、阿部君はこれで計算すると言えばみんなわかってくれますから」と。「ずるいと言われるでしょう」と言えば「大丈夫、大丈夫」と。小学校2年の学級会で、みんな人にやってもらってお殿様みたいがいい気になって、これじゃいけないとクラスの子から学級会で議題にあげられたことがある。「阿部君はちょっと調子に乗ってます。それじゃいけないと思います」と言われ、みんなの前で「わかりました」と涙ながらに謝った。それもこの子に良かったと思う。

根本 (母) それも子どもの平等性だ。ちゃんと子どもは知っている、出来ることもあると。

阿部 (父) 子ども達のほうが特別視せず、言ってくれるのは逆にありがたい。親が家で叱るのと友だちが早目に言ってくれるのは違う。本当は睨まれて相手にされない、ということもあり得る中で、わざわざ議題にあげてまでやってくれる。

根本 (母) 普通学級に入れたいのはそういうところを期待している。子どもの初めての社会経験で、初めての小さい社会だから、そこで受け入れられて、本人ができることは本人がやれ、と社会から言われることが大切だと思う。

阿部 (父) 我々が選択したのはまさにそこだった。養護学校も見たが、かなり守られているので子どもには学びやすいかもしれないが、あのようなわがママがあったら、専門家だし合わせてもくれるし、叱ってもくれるだろうが、一般よりは守られてしまう

川田 息子は今、友達の中で自分をどうやってうまく出していこうかと苦しんでいる時期だと思う。先日登校のとき、友だちに「車椅子とベビーカーとどう違うの？ベビーカーが大きくなったのが車椅子みたいだから（息子も）赤ちゃんみたい」と言われ、うちにも赤ちゃんがいるので同じにされたとすごくへこんだ。あとで「車椅子は自分でこげるでしょう、押ししてもらってるからベビーカーだなんて言われるんじゃない」と言うと、帰りは「こぐ」と言って学校から家まで自分でこいだ。子どもは変だと思うとボンと言ってくるので、そのことで落ち込むことがあるが、しばらくたつとそれをバ

ネに力をつけて、それがこの一年で伸びた気がする。漢字もほとんど毎日宿題が出て、すごく汚いながらも書いていくと、お友だちがそれを面白いからといって見に来る。それでもちょっと上手なところがあると、女の子が「これはちゃんと書けているね」と言って、その小さい一言で彼は「できた」とパラダイスになってしまう。一年生で習わない漢字もパソコンで変換しプリントして「こんな漢字が出てきた」と言って覚えている。電卓もはまり始めて算数の計算が全然ついていけないので思い切って電卓を与えたら、こんな簡単に計算ができるようになった。それなりに工夫をして授業を受けているが、工夫ができてきただけでも、社会の中で生きる力を親子で得られるかなというのがこの一年の成果と思う。

仲吉 うちには知的障害があるので、まわりの子に言われても本人はあまりわからないところがある。「やんなきゃだめだよ」と声をかけてもらって、それでもやらないが、できないから仕様がな。勉強もついていけるレベルではなく授業中も好きなことをしているが、だんだん自分はこのクラスの一員だという意識は出てきた。初めは教室に入れなかったが席につけるようになってきて、クラスの子の顔も覚え、可愛い女の子はすごく好きだったり、かまってくれる子は決まったり。子どもは自然体なので必要以上にしつこくもしないし、いじめも全然ない。ただ親がいつもいるので「なんで出来ないの」と、彼に聞けない分、親に直球が来る。こうなんだよって言うと、子ども達もわかってきたみたいで、息子がこのクラスにいるのは他の子にとってはあまり気にならないようだ。

入学時に安全面での心配はされなかったか

阿部 面談で1、2度会うくらいでは普段の状況がわからない。車椅子や杖を使って廊下を歩くので休み時間に衝突して息子や他の子がケガをしないか心配された。ケガをする場面はどこでもあり得るが、話し合いでうちも注意しますと伝えた。

阿部 実際に子ども達は息子が来ると走らないし、走ってる子も止まる。たまにぶつかって倒れてもそんな事故はない。

学校で親が付き添うことについて

阿部 親離れしないといけないので、肉親じゃないほうがいい。家の延長ではなく、学校は学校とわかってもらわないといけない。上手く手を貸し、しかも甘えないようにしなくてはならない。

輪島 みんなは親がついていないわけで、そういった意味でごく当たり前。本人達は友だち同士で楽しみたいし、多少危険や不自由があっても友だちとつながっていくから親はいないほうがいい。

川田 うちの子どもは甘えが強く、母親は子どもの目を

見れば要求がわかるし、子どもは口に出して言わなくてもすんでしまう。今年15人からのボランティアに入ってもらい、子どもは訴えないと自分の要求が満たされないことから口に出すことができるようになった。

ボランティアへの期待、介助員への期待

川田 自分ひとりで学校生活を送るのが理想だがまだ体の機能も能力もそこまでいってないので、その分をボランティアに補ってもらっている。公的な介助員は専門性を要求するかもしれないのでその時はまた子どもに別の壁が出来るかもしれない。

根本(母) 公的な介助員は専門知識があると思うし、担任だけでは補いきれないその子なりのプログラムとか教え方があるのは理想的だが、ボランティアの良さは一般人の目で、この子はこれが出来ないからこういう風に、またこういうことができるんじゃないかと世間の代表で見てもらえるのが素晴らしい。学校にこういう子がいると広めてくれるのもボランティアならではのメリットだ。

仲吉 自分の子だと心配が先に立つ。人の手を借りたいが、基本的には誰もつかない方がいいと思う。学ぶことはたくさんあるし、ボランティアや親がつくとまわりが頼るのがわかる。この子には親がついてからいいと思ってしまう。身体的な介助ではないので、ボランティアには子どもとの関係を作りつつ、学校生活の中に誘い込んでもらったり、入れないときには息抜きをさせてもらったり、ボランティア自身の考えで見てもらっている。ベストはどういう状態かわからないが、介助員がついたらいいと思うが、同じ教室で全く違うプログラムをするのも抵抗がある。今は、わからないけど何とか聞いていたり、ちょっと入ってみたりという場面が見られる。ボランティアだと客観視してもらえ、それぞれにいいところはあると思う。

阿部(母) 2年の担任がボランティアを巻き込むのが上手く、ボランティアも一生懸命で、手品をしてくれたり担任の先生より人気者になった。先生は「みんながこうやってボランティアと接してられるのは阿部君のお陰だよ」と子ども達に言ってくれた。その頃は地域に開かれた学校と言いつつ、まだ地域の人が入りきれてなかった。担任がうまくボランティアを入れてくれて、公的な介助だったら阿部君の介助の先生になってしまう。ボランティアも阿部君のクラスの子はみんな可愛いと言ってきて、その後に地域の人が入るきっかけになった。公的な介助員が入るとしたら副担任のような感じで、クラスの子みんなを見ながら障害のある子、不登校気味の子とか困ったときに手助けできるような、もちろん障害によって1対1でつかないといけない子どももいると思うが。低学年から高学年にあがればだんだん自立する能力がどの子も少しは出てくるので、阿部君の先生ではなく、みんなの先生でやっていけるのではないか。

こげら会

『こげら』という鳥は、武蔵野の公園や街並木で一年を通して見られる愛嬌のある小さなきつつき。誰もが『こげら』のように何の気兼ねもなく地域の中で生活していけるように、西東京市や武蔵野市を中心に「ちょこっ隊」というサービスをスタートさせました。例えば、音声パソコンを購入したがLANコードと電話線の接続をお願いしたい、という視覚障害者の方からお電話をいただき即座に対応したり、知的障害児の放課後活動の送迎サービスなど、少しずつ羽ばたき始めました。そして4月からは「支援費制度」の居宅介護サービスもスタートさせます。一緒に『こげら』活動いたしませんか？

【事務局】 〒180-0013 武蔵野市西久保3-2-1 アルベルゴ武蔵野701

TEL 0422-52-3103 FAX 0422-52-3197 e-mail: kogerakon@jcom.home.ne.jp

〒202-0023 西東京市新町6-4-19 TEL&FAX 0422-25-2120

NPO紹介

活動レポート ボランティア活動に参加して 後藤 嘉昭

人生80年といわれる時代ですが、私も去年還暦を迎え、仕事もリタイヤし、組織の中で働く生活も終わり、家庭内では子ども達も社会人として世に出て、今後親の庇護も必要なく、数年後にはそれぞれが独立していくと親としての仕事も少なくなります。そのために親の私達が先ず子離れをしなければと考えていました。そこで体力があるうちに結果を早急に求められないで、期間5年ほど続けられることと、学生のときに訪れた身体障害者の施設で感じたこと等を考えながら、去年の10月に西東京ボランティア・センターを訪ねボランティア活動を始めるようになりました。現在、障害者施設の手伝いを週に2回程と、在宅の身体障害者の方の温灸の手助け等を行っています。

まだ数ヶ月の活動期間ですが、そんな私が人の視線、目線の高さによる判断基準の物差しの数と種類の多さ、ボランティアをする人と受ける人の時間の長さの違い、また、悠々と時を過ごしている人がいることを知り、それを認めようとする私自身に興味があり、今までと異なる目線でものを見る自分自身にも驚いています。それと同時に、施設で働く職員皆さんの努力、情熱、知識にはさすがプロだと思います。私もレベルを上げて質の高い手伝いが出来れば、と思う今日この頃です。いずれ来るだろう自分自身が介護を受ける立場、具体的には私たち自身の老々介護をどう対処するか自問自答していますが、ボランティア活動からその答えが見出せると思います。

Q&A ボランティア保険



Q あるボランティアグループが、公立小学校の「総合的な学習の時間」に協力した授業で、子ども（児童生徒）がケガをしたそうです。この場合、補償対象でしょうか？

A 即答できません

ボランティア(グループ)に明らかに過失があって、子ども(児童生徒)がケガをしたのであれば、賠償責任保険の部分で補償の対象になる可能性はありますが…。総合的な学習の時間は、あくまで学校の授業(学校の管理下)で、監督者は学校・教師等であるということ。また子ども側の不注意による場合や、学校(教師等)側の授業計画の甘さなど、誰に過失があったかなどで変わります。この場合、それぞれの立場で加入している先の保険など(傷害や賠償責任の部分)も複雑に絡み合ってくるので今回のお話だけでは即答できません。

「総合的な学習の時間」は、平成14年度から本格実施され、これからもボランティアやボランティアグループなどが協力するパターンは増えていくと思います。学校からの依頼に対し、リスク管理もしっかりと話し合ってください。それが子どもたちや皆さんの安全につながります。

実際の対応は事故のケースによって微妙に異なりますのでご注意ください。

- 編集にあたり台東ボランティア銀行情報誌「わっしょい」から転載させていただきました -

平成15年度ボランティア保険の加入手続きを始めます

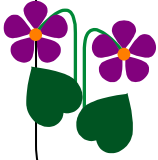
思わぬ事故はボランティア活動中にも起こります。ボランティア保険は、ボランティア活動中の偶然な事故で本人がケガをした場合の「傷害保険」と、相手の身体や財物に損害を与え、または名誉毀損・プライバシーの侵害等で損害を与え、法律上の賠償責任を負った場合の「賠償責任保険」の2つの補償がセットになった保険です。補償期間は毎年4月1日から翌年3月31日までですが、途中加入は手続きの翌日から補償期間となります。年間保険料(掛け金)は300円・500円・700円の3つのプランがあります。平成15年度の加入手続きは、3月24日(月)から西東京ボランティア・市民活動センターで受け付けます。

ボランティア活動を安心して行うために、ボランティア保険への加入をお忘れなく。

車椅子の小学校一年生の介助をしてくださる方

今年4月、西東京市の本町小学校に入学し、車椅子で通う子がいます。移動手段は車椅子を使用する予定ですが、学校生活の中では様々な場面があり、生活上の困難が予想されます。基本的な生活習慣はほとんど自力で出来ますが、肢体不自由なため動作が他の子どもより遅く、一人ではどうしても出来ないこともあり、少しのお時間と、少しの手をお貸しいただきませんか？詳しくはボランティア説明会で話させていただきます。なお、私どもが所属するはつきいねっと（障がいをもつ子どもを中心とした家族でつくるグループ）では他にも介助ボランティアを募集しています。説明会であわせてお話しします。

【ボランティア説明会】3月9日（日） 10:00～12:00 14:00～16:00 保谷障害者福祉センター
今後も随時行います



肢体不自由の小学校2年生（4月より）の男の子。保谷小学校。登下校に車椅子を利用していますが、手をもって支えると自力歩行できます。

自閉傾向の小学校2年生（4月より）の男の子。保谷小学校。言葉が少なく自己表現が苦手ですが、運動機能には問題はありません。

【連絡先】根本 TEL0424 - 78 - 9751 はつきいねっと事務局 TEL/FAX 0424 - 65 - 9871

アイススケートと一緒に

13歳（中1）のとても元気な女の子のスケートの相手をしてください。月1回、日曜日にスケート場（東伏見）で、一緒に滑ったり相手をしてくださる方を募集します。中度の知的障害がありますが体を動かすのが大好きです。

外出付き添い

車椅子使用の40代男性です。まだ一度もノンステップバスを利用したことがないため、一人で乗車するのは不安です。ひばりが丘駅から田無駅まで付き添ってください。火・木曜日の午後3時以降か土日をご希望します。

活動室の利用申込みが始まります

西東京ボランティア・市民活動センターでは、前期（4月1日～9月30日）利用の申込みを受け付けています。

利用対象者・・・ボランティア・市民活動・NPO団体

- ・代表者が西東京市在住
 - ・活動場所が西東京市中心
 - ・事務所が西東京市に設置
- 左記のいずれかが該当する団体

場所 中町2-1-3

田無町5-5-12 田無総合福祉センター内

受付期間 3月1日（土）～14日（金）

利用の決定 3月25日（火）に決定し発送します。

詳しくは当センターまでお問い合わせください。

素晴らしいToshi ボランティア慰問ライブ

平成15年2月13日、さくらんぼ（心身障害者通所訓練施設）とたなし工房（精神障害者共同作業所）合同で、元X JapanのToshiさんのミニライブを開催しました。Toshiさんには3曲歌っていただき、X Japanで活躍されていた頃から現在に至るまでの気持ちの経過や、ご自身の持つコンプレックスに対する考え方の変化などについて、興味深いお話をいただきました。30分ほどの短い時間でしたが、たいへん思い出に残るミニライブとなりました。Toshiさん、どうもありがとうございました。（井本）途中でトイレに行ったけど、心にしみる歌とトークでした。（大久保）Toshiのミニライブを観て、プロの豊かな表現力を感じた。（榊原）



Toshi

*ばらんていあ倶楽部は市内の次の施設、機関でも入手できます。ご利用ください。

西東京市社会福祉協議会 西東京ボランティア・市民活動センター 市役所
公民館 図書館 地区会館 郵便局 老人福祉センター 福祉会館 消費者センター
こもれびホール ふれあいセンター スポーツセンター ファミリーマート（中町店）